



第 47 回九州アマチュア選手権競技

競技報告 (2017/ 5/23-26)

写真と記事 : M.Kikutake

通算 8 アンダーの 280

葛城史馬 (中津) 逆転で初優勝!!

大分市の大分カントリークラブ月形コース (7177 ヤ、パー72) で5月 23 日から4日間行われ、通算 8 アンダー、280 の好スコアをマークした大阪学院大2年、葛城史馬 (ふうま、中津) が逆転初優勝した。葛城は宇佐高 (大分) 出身で、連盟主催競技は高校2年夏の九州ジュニア選手権 15~17 歳の部で優勝しており、2冠、。



最終日の 26 日は、最終組が優勝を争いの中心になった。通算 7 アンダーで首位の前回覇者、大阪学院大3年、玉城海伍 (カヌチャ) を 3 打差で葛城と、2015 年の前々回大会優勝の東海大九州2年、古川雄大 (ゆうき、大博多) が追う展開。玉城は今季、JGAのナショナルチームメンバーにも選ばれた存在だが、スタートからボギーが先行する苦しい戦いとなった。そんな中で葛城は4番バーディーで逆転首位に立つと、以後も4バーディー (1ボギー) と安定したゴルフを続けてこの日のベストスコアをマーク。73 とスコアを伸ばせなかった2位の玉城に2打差をつけて逃げ切った。

古川も前半2バーディーで葛城と首位に並んで折り返したものの、後半スコアを落とし、71 (2バーディー、1ボギー) をマークした大阪学院大1年、富本虎希 (美らオーチャード) とともに通算4アンダー、284の3位タイだった。

大学勢の争いを制しての栄冠

玉城海伍 (カヌチャ) は連覇ならず 2 打差の 2 位

今大会には各県地区で行われた1次、2次予選の通過者、シード選手ら計 160 人 (欠場 4 人) が参加。初日の第1ラウンドは5バーディー、1ボギーの 68 で回った福岡・冲学園高2年の 16 歳、四位洸太郎 (若宮) が古川や玉城らに1打差をつけて単独首位でスタートした。しかし、1アンダーの 11 位タイまでに 15 人が3打差でひしめく混戦。

第2Rは雨に見舞われてスコアを崩す選手が続出した。そんな中で、4バーディー、1ボギーの 69 で回った葛城が初日の6位タイから浮上、1イーグル、2バーディー、2ボギーで70の玉城とともにトップタイに並んだ。初日首位の四位はこの日79を叩いて11位タイに後退。通算14オーバーの158、75位タイまでの83人が後半の決勝ラウンドに進んだ。

その第3Rも玉城が2アンダーの70で通算7アンダーとして首位を維持。これに、この日71で回り、3日間オーバーパーなしの古川と、73で一歩後退した葛城が3打差の2位で最終日を迎える展開となっていた。

九州オープンは 30 人が出場権 日本アマは 15 人が獲得（シード除く）

この試合の結果、第 102 回日本アマチュア選手権（7 月 4 日から、広島県の広島カントリー倶楽部八本松コース）へは 13 位までと、14 位タイの 5 人のうち規定による成績比較で上位 3 人を選抜、計 15 人（ナショナルチームシードの玉城を除く）が出場権を得た。

また、2017 九州オープン選手権（8 月 3～6 日、福岡県・小郡カントリー倶楽部）は通算 14 オーバーの 29 位までと、30 位タイの 5 人のうちマッチングスコアカードで選ばれた 1 人の計 30 人が出場権を獲得した。



宇佐市出身。大分が地元の葛城史馬

「お世話になった人の前で優勝できて、本当にうれしい」

前回覇者と前々回覇者を向こうに回しての栄冠に破顔



(C)GUK

2 日目の雨で湿り気を帯びていたコースも、最終日はからりと晴れ上がり、グリーンを乾かしていた。アンジュレーションがあり、固くて、速いグリーンは選手を存分に苦しめた。

葛城は最後まで優勝を争った大学の 1 年先輩、玉城海伍とは 17 番を終わって 1 打差。18 番（パー 5）は 3 人ともに第 2 打をグリーンを囲むバンカーに入れた。グリーン手前のバンカーから 3 オンしていた玉城。葛城はグリーン左サイドの深いバンカーから、ピンまで距離のない難しいショットを残していた。この 1 打で勝負はどう転ぶかわからない。上から横から、入念にグリーンを落とすところを読んだ葛城は、2 打につけてこれをねじ込んだ。結果的に玉城はパー

で終わり、差は 2 打に広がったが、それほど思い入れが強かったのだろう。冷静な葛城から飛び出したガッツポーズが歓喜を物語っていた。

上位陣はジュニア時代から競り合ってきた仲間ばかり。しかし、そんな中でも、九州アマのタイトルともなると、気合の入りが違う。前回優勝の玉城、その前の年を制している古川。その 2 人に挟まれた葛城はしかし、冷静だった。玉城があきれほどのアイアンの切れの良さ。18 ホール中、17 ホールでパーオンさせ、プレッシャーを与えた。

葛城は「初日から、ボギーを打たないゴルフを心掛けた。今日もショットが良くて、崩れないゴルフを見せられた」と振り返った。終わってみれば、「これほど組み立てを考えたラウンドはなかった。守るところ、攻めるところのメリハリのあるゴルフができたと思う」と言う言葉も力強かった。

安心院小 1 年からクラブを握り、高校は強豪校ではなく地元の宇佐高校に進学。市内の「ヨリモゴルフ倶楽部」のジュニア教室で腕を磨いてきた。大学は近年注目されている大阪学院大に進学。ここで学んだゴルフは「いかにリスクを少なくしてパーディーを取るかを考えるようになった」と言う。それが見事に結実したのが、今回の九州アマだったのだ。

「応援してくれた地元の人の前で勝てたのが、本当にうれしい」という葛城。この後は、日本アマのタイトルに挑む。「今回のように考えながらのプレーを心掛けたい」。そう力強く話してくれた。



2位の玉城海伍（写真左） 朝イチはグリーンの速さがつかみきれず、流れが良くなかった。18番は気持ちが切れないように、と心掛けていったけど…。自分が攻めきれなかったし、アンダーパーで回れなかったところが敗因です。

3位タイの古川雄大（写真右） 前半はイメージ通りのゴルフができた。後半になって、どんな心境になって挑めば勝てるんだろう、考えながらやってたけど…。収穫は最後の3ホールで攻められたことが自信になります。昨年よりは成長していると思います。

